

施策番号 2-1-2	施策名 農業生産性の向上と農業の応援団づくり	基本目標	豊かな自然を生かした活力ある農業のまちづくり		
		政策名	基幹産業の農業に対する支援の強化		
主管課 施策関係課	農林課	課長名	課長補佐 藤野 元成	内線	410

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
環境に配慮した農業生産をすすめるとともに、本町農業・農畜産物の理解を促進し、農業の持続的発展を図ります。		農業経営体 耕作地	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型の農業生産をすすめる ・先進的技術の導入による生産性向上が図られる ・本町農業の応援団づくりを促進する 				<ul style="list-style-type: none"> ・環境に調和した農業の持続的な発展が図られる ・地場産の農畜産物の理解、消費者との連携が促進され消費拡大が図られる
成果指標	説明	単位	年度(策定時)	28年度	29年度	30年度	
① 農業産出額	農業生産額(農業再生協議会)	億円	231.3	253.0	314.9	270.0	
② 日頃、地産地消を意識して買い物をしている町民の割合	住民意識調査	%	74.2	75.3	74.0	80.0	
③							
成果指標設定の考え方	①農業産出額～農業分野における成果としては、農業産出額は主な指標となると考えており、農業再生協議会として公表数値としていることから、前期計画に引き続き設定したもの。②前期計画で施策としていた、「消費者と結ぶ地産地消の推進」を再編、統合して本施策に盛り込んだ。前期計画の数値の推移などから、90%の目標値は達成困難と判断し、現実的な目標達成を見込んで80%を目標値とした。						

2. 施策の事業費

	28年度決算	29年度決算
施策事業費(千円)	187,270	145,112
人工数(業務量)	2.1812	2.1092

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成29年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	めむろ農業小学校や地産地消バスツアーは好評であり、食育・地産地消への意識付けの機会となっている。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	JAの第8次農業振興計画では平成34年度の農業産出額目標を314億円としている。平成29年度は天候にも恵まれ目標を大きく上回ったが、災害等がなく平常並みの状況であれば、目標を達成できると考えている。地産地消を意識して買い物をしている町民の割合については、「芽室町食育推進計画」の進捗状況を把握した上で、改善策を検討し目標達成に向けた取組を推進する。
(2) 施策の成果評価に対する平成29年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	めむろ農業小学校運営事業 地産地消協働推進事業 農作物有害鳥獣駆除事業 畜産クラスター協議会運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> ・「芽室町食育推進計画」は、第2次計画の進捗を検証し、第3次計画策定を進める。 ・農作物有害鳥獣事業では、残滓処理施設を設置し、適切に処理が行われている。 ・畜産クラスター事業については、畜産農家の生産基盤整備、労力低減等に向けて成果があったと考えている。 ・農業ICT化の研究については検討会議等を中心に議論を進めている。 		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	畑作・畜産ともに、今後は農家戸数の減少に伴い、担い手への農地集積・経営規模拡大が予想される。引続き、生産基盤の整備の支援を進めていく必要があり、ICT農業による省力化の取組も生産性向上には重要な要素となってくる。また、本町の基幹産業である農業の重要性を町民に理解していただくために、食育推進計画の見直し(第3次計画の策定)を進めながら地産地消等に取り組んでいく必要がある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	有害鳥獣対策事業については、被害軽減のための対策を重要課題として取り組んでいるが、農業者から被害減少や駆除に関する要望が随時寄せられている。

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たにに取り組むべき課題)

- 課題① 農業の応援団づくり ～「めむろ農業小学校」や「地産地消バスツアー」などの事業が好評であるが、内容・プログラムの見直しは随時検討していく。
- 課題② 「芽室町食育推進計画」について ～計画の見直しと、農業分野における関係事業を推進していく。
- 課題③ 農作物有害鳥獣対策 ～農業者への自主防衛意識啓発、残滓処理施設の効果的運用、電気柵設置の支援など、継続的に推進していく。
- 課題④ 「農業ICT化の推進」～JA、役場、生産者の役割を明確にしなが、有効活用への支援をしていく。
- 課題⑤ 畜産課題への対応 ～「芽室町における酪農基盤整備構想」に基づく町営牧場の運営体制強化や、生産性向上のため畜産クラスター事業をはじめとする効果的な補助事業の活用を継続していく。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	農業産出額は順調に増加しており、応援団づくりの取り組みも好調であることから、前進していると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	「担い手育成と農業支援」の施策と合わせて、第5期総合計画においては施策の組み替えも検討すべきである。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	ポリシーをもった農業小学校の取り組みなどを行っており、前進していると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	●めむろ農業小学校について、今後も継続していけるような新たな取り組みや声かけが必要である。 ●現実路線に合わせて成果指標の目標値を下げるのではなく、設定した目標値を目指した取り組みをしてもらいたい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					